

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第5回中央地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)		中央区役所 中央6地区まちづくりセンター 電話042-707-7049 (直通)		
開催日時		令和3年10月12日(火) 18時00分～19時30分		
開催場所		中央公民館大会議室		
出席者	委員	19人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	2人(中央6地区まちづくりセンター所長ほか1人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開 会 2 事務連絡 (1) 本市における新型コロナウイルス感染症の状況について 3 議 題 (1) 中央地区防災計画の修正について (2) 中央地区の課題に対する取り組みについて (3) その他 4 閉 会		

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

### 1 開 会

牛尾会長からあいさつをした。

### 2 事務連絡

#### (1) 本市における新型コロナウイルス感染症の状況について

事務局より、資料に沿って、現在の本市の新型コロナウイルス感染症の状況について説明した。

〈主な意見・質疑〉

特になし。

### 3 議 題

#### (1) 中央地区防災計画の修正について

事務局より、資料に沿って、中央地区防災計画の修正に関する概要を説明した。その中で、今後、まちづくり会議の部会として検討組織を立ち上げ、防災計画修正の議論をしていくことについて審議した。

〈主な意見・質疑〉

○先般、市内全戸に防災ガイドマップが送付されたと思うが、その中で「各地域の自治会組織を上手く活用する」というような文言が多くみられた。これに対し、自分としては違和感を抱いたことから、直接、危機管理課に問い合わせ「相模原5丁目のような自治会の存在しない地域はどのように対応すれば良いのか」と質問した。すると、驚くべきことに危機管理課は相模原5丁目に自治会が存在すると思っていた。続けて、危機管理課に「地域防災をどのように考えているのか」と質問したところ「自助、共助、公助を前提にして、地域防災にあたっていただかななくてはならない」と回答があったため、「では、その地域防災を誰が担うのか」と質問したところ、「それは自治会です」と回答され、堂々巡りになった。今回、中央地区で防災計画を見直すということであれば、是非、自治会の存在しない地域の防災についての視点も考慮して検討していただきたい。

○私は長年、まちづくり会議の委員を担っているが、そもそもまちづくり会議の中に防災計画を検討するための部会が存在するという認識がない。また、今回、検討部会の会則を変更するということだが、これは中央地区だけの取り扱いなのか。中央区内の他地区との連携はどのようになっているのか。

⇒●本日の会議に上程した会則は中央地区だけの取り扱いを定めたものである。  
また、他地区については修正に係る手続きの流れなどは同じだが、検討組織のあり方は地区によって異なる取り扱いをしている。つまり、中央地区のようにまちづくり会議の部会形式を取っている地区もあれば、まちづくり会議そのもので検討していたりと様々である。

⇒○対応は様々でいいが、要するに言いたいことは、まちづくり会議の委員自体も毎年変わっており、今回の地区防災計画の件についても知らない委員が多い為、過去からの継続ということであれば、しっかりと引き継ぎだけは行った上で実施してもらいたいということである。

○今回の地区防災計画については、市の防災計画に準じた修正となるのか。それとも市の防災計画には縛られない形での自由な修正が可能なものなのか。

⇒●ご指摘のとおり、今回は市危機管理課より、上位法令である災害対策基本法が改正されたことに伴い市地域防災計画が修正となり、それを地区防災計画に反映させるべく各地区に修正依頼があったものであり、法改正の内容は市の防災計画に準じて修正するよう依頼がきている。しかし、地区防災計画は本来、地区の実情に応じて地区独自の計画を定めるものであるため、各地区ごとに地理的な条件なども考慮して、市の防災計画だけに縛られず、自由に修正していくことが望ましい。

○まちづくり会議は自治会に加入している人だけの会議ではないから、地区防災計画についても自治会加入の有無に関わらず、地区住民全員が対象となるような計画という認識でよろしいか。

⇒○お見込みのとおりである。現状の地区防災計画も地区住民全員を対象としているという認識である。

○前回の検討部会には、地区社会福祉協議会や地区民生員児童委員協議会の委員もメンバーに含まれていたが、今回の検討部会ではメンバーから外れている。上記のような委員は災害弱者の視点を持っているため、前回の検討部会には含まれていたと推測するが、今回外れたことについては何か理由があるのか。

⇒○今年度は中央地区自治会連合会自主防災隊と防災専門員及び防災マイスターとともに防災会議を行っており、そのような防災に精通しているメンバーでの会議体がすでに存在しているため、そこで今回の地区防災計画修正も合わせて議論しようと考えたものであり、特段、社協等の団体が外れたことに理由はない。ただし、ご指摘の点についてはごもっともであり、議論の中で考慮していきたい。

○スケジュールを確認すると、最終的なゴールが修正した素案を市防災会議に提出して完了ということで、受け身な事務手続きのみのように伺える。そうではなく、今回、労力を使って地区防災計画を修正するというのであれば、根本からしっ

かりと検討し直して、修正した結果を地域住民にもしっかりと周知をするということも一つのゴールなのではないかと思う。このようなことを考えると、今年度で完了するという事は難しいと思うので、来年度も継続して実施していくことが重要である。そうでなくては、せっかく作った計画も形骸化してしまい、意味がなくなってしまう。私からの一つの提案として受け止めてほしい。

⇒○ごもっともな意見である。今回は市から依頼があったため修正に着手するものであるが、修正した計画が意味のあるものとなるために継続的に検討していかなければならないと考える。しかし、ひとまず、今回は市からの依頼があり着手しないといけない面が強いことから、今回上程した会則（案）及びメンバーで検討を進めていきたい。その中で、今後、修正結果を踏まえて来年度はまちづくり会議に防災部会を設置するなどしてしっかりと議論していくことも一つの手法と考える。いずれにしても、修正した結果については、今後のまちづくり会議においてしっかりと説明をしていく。

○会則第3条の（構成及び任期）に「本部会は、まちづくり会議委員・・・（中略）・・・とおりとする。」とあり、構成員はまちづくり会議が主であるが、修正後の会則では構成団体の中にまちづくり会議が出てきていないため、今回の検討部会メンバー及びまちづくり会議委員にも重複しているメンバーについては、選出団体はまちづくり会議にするべきではないか。

⇒○そのように修正する。

〈結果〉

上記のとおり、会則（案）及び検討組織（案）について承認された。

（2）中央地区で取り組む課題について

会長から、各チームごとに議論して今年度の方向性を示すよう促した。最後に議論の結果を各チームから報告があった。

（中央地区公園プロジェクトチーム）

○10月中は富士見小学校も学校行事が重なり調整が難しい為、11月以降に学校側との打ち合わせを再開しようと考えている。また、打ち合わせの内容としては、月に1回の4時限で終了する日の放課後に見守り隊を創設した上で校庭開放を実施する案や土日のスポーツ団体が利用する時間の一部をまちづくり会議に空けてもらい校庭開放を実施する案などを検討している。今後のスケジュールとしては、月に1回の一斉下校の日にちや土日の利用が可能な日にちを佐藤委員に確認してもらい、可能な限り、今年度内に実績を作りたいと考えている。

(コミュニティの希薄化に関する検討チーム)

○コミュニティに関する課題は難しく堂々巡りの様相もあるが、先般、一つのアクションを起こした。それが、中央高齢者支援センター主催の地域づくり部会での「お出かけマップ」作成事業の会議である。その会議に、相模原5丁目の有志の住民3名に参加してもらった。当初、まちづくり会議としては、この3名などと一緒になって、今回のまちづくり会議で議論されている諸課題に取り組んでいきたいと考えていたが、総じて、まちづくり会議に対する協力は難しい様に思えた。このため、今後としては、こうした人たちと徐々に関係性を持ち、将来的にはコミュニティの基盤の無い相模原5丁目の核となって、諸課題に取り組んでもらえる人材になってもらいたいと考えている。一方で、私たちとしても、そうした人たちに全てお任せをするのではなく、相模原5丁目の住民がどのような情報を欲しており、どのような情報伝達の仕方が望ましいと考えているのかを検討し、必要があればアンケート調査なども行った上で対応していきたいと考えている。また、先ほど述べたように、市の危機管理部門も中央地区に自治会が存在しない地域があることを承知していない状況からも、市役所内部での情報共有も不十分なように見受けられるため、私たちの取り組みだけでは限界があると懸念もしている。いずれにしても、今後も継続して、相模原5丁目において核となって動いてくれる人材を探すことを目的に検討していきたい。

⇒○補足だが、「お出かけマップ」の作成は中央高齢者支援センター主催の地域づくり部会で行っていることであり、まちづくり会議のチームが主体ではない。あくまでも、チームの目的である自治会組織のない地域での人材発掘をマップ作成事業を通して達成を模索するという趣旨であるため、お間違いない様にしていきたい。

(きれいなまちづくりチーム)

○先般、まちづくり会議にて、問題のあるごみ・資源集積場所のアンケート調査を実施したところ、中央地区内での問題のある集積場所は西門商店街の集積場所という意見が多かった。西門商店街のある市役所前さくら通り地区はこの度、景観形成重点地区にも指定されたことから、まずはこの場所から徐々に改善に向けて着手していこうと考えている。なお、私たちのチームの最終目標は、ごみ袋の有料化や戸別収集の実現であるが、一気にそこに至ることは出来ないのも、上記のようにまず出来ることから実行に着手したり、他市の状況を調べて検討しながら進めていきたい。

### (3) その他

○本日の会議でも「中央地区っていいなフェア」の話が何回か出たかと思うが、委員の皆さまがこのフェアの概要を把握していないため、早急に情報をお知らせした方がよいと思うがいかがか。

⇒○10月17日（日）に中央公民館の運営協議会が実施される予定で、そこで承認を得られたら正式に決定となるため、正式な情報解禁はしばしお待ちいただきたい。

○ご存知かと思うが、平成18年に中央高齢者支援センターが設立され、当時の名称は地域包括支援センターだった。ただ、地域包括支援センターだと誰を対象とするか分かりにくいという意見が多かったため、相模原市としては当センターの愛称を公募した結果、7年前より高齢者支援センターを名乗るかたちとなった。しかし、社会情勢に伴い、高齢者だけでなく障害者や様々な事情を抱えている人たちも包括して支援していく必要性が高まったことから、今年10月1日付けで改めて地域包括支援センターを名乗ることとなったのでご承知おきいただきたい。

## 4 閉 会

令和3年度 中央地区まちづくり会議委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	牛尾 良一	中央地区自治会連合会	会 長	出席
2	中川 清一	中央地区自治会連合会		出席
3	徳田 文夫	中央地区社会福祉協議会	副会長	出席
4	根岸 泰子	中央地区民生委員児童委員協議会		欠席
5	八木 憲哉	中央地区民生委員児童委員協議会		出席
6	熊沢 憲一	中央地区老人クラブ連合会		欠席
7	岡野 博	中央地区青少年健全育成協議会		出席
8	松田 正則	中央地区健康づくり普及員協議会		出席
9	東使 敏二	中央地区防犯協会		出席
10	増田 勝也	交通安全協会		出席
11	松本 勇作	中央小学校 PTA		出席
12	梅林 巖	弥栄小学校 PTA		欠席
13	佐藤 匠	富士見小学校 PTA		出席
14	岡本 和茂	中央公民館	副会長	出席
15	浦上 裕史	中央地区内商店街		出席
16	澤畔 正裕	中央高齢者支援センター		出席
17	秋葉 秀二	公募委員		出席
18	井之上 久	公募委員		出席
19	倉澤 良明	公募委員		出席
20	小澤 隆宏	公募委員		出席
21	鳥海 千秋	公募委員		出席
22	中里 良治	公募委員		出席